

人口減少を考える2

下図をご覧ください。

2023年に徳島県から転出した人数と転入した人数の差を、年代別に示した。ポイントは2つ。

- ①20～24歳に転出のピークがあり、男性よりも女性が多く転出している
- ②59歳までの全年代で転出が多い

女性の流出は、大学卒業年齢にあたる20～24歳が最多で、年間750人程度の転出超過である。この世代の小学校入学時の人数は男女各約3,500人であり、20～29歳で女性の30%が転出していることになる。この流出割合が彼女らの子供の世代まで続くと、 $(1-30\%)^2=49\%$ と半減する。日本全体で進行する人口減少に加え、徳島県では「更に半減」することになる。

日本の人口減少は一地域では止められないが、「若い女性の流出」は地域が主体的に考えるべき課題だ。

112号に続き、今号も徳島の人口減少にテーマを絞った。

巻頭の対談は、徳島の3大学の学長・理事長に、大学の現状と未来のための活動状況をお聞きした。

兼子の論文「徳島県市町村別人口減少分析と施策」では、国立社会保障・人口問題研究所の最新予測を、市町村別に図示した。24ページ図表4-2の人口ピラミッドは、転入転出がある場合・ない場合の2050年の人口分布を示している。

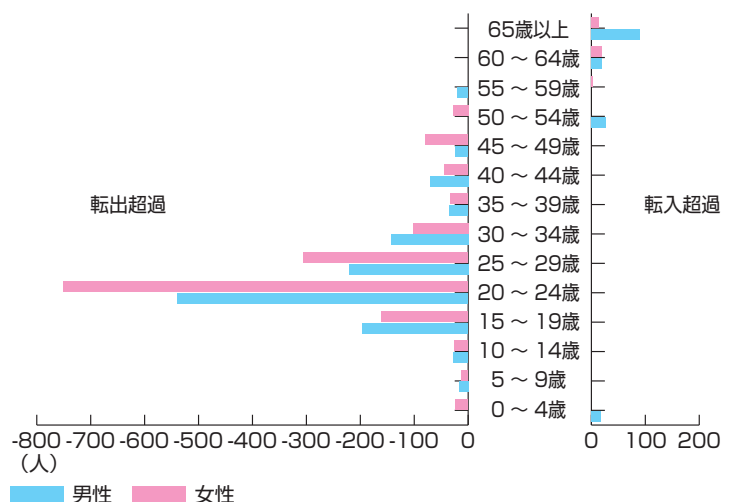
近藤の「若年層の流出と地方の未来2」は、転出・転入した若年女性に詳細にヒアリングし、転出の理由とUターンを阻むものを明らかにした。

瀧川の「女性の継続就業によるM字カーブの解消」は、徳島で働く女性の、働き方の変化と家事・育児をめぐる現状を調査した。

青木の「人口減少とこれからの路線バス需要」は、徳島バス(株)のご協力による乗降の実データに人口予測を組み合わせ、人口減少下でのバス路線維持の可能性を示した。

徳島の人口減少の現状と将来を、俯瞰いただきたい。

■ 徳島県の転入人口－転出人口(2023年、男女・年齢階層別)



資料:徳島県「徳島県人口移動調査年報」より作成